

# 安全管理マニュアル

ありんこ親子保育園

平成29年4月

# 1 事故防止対策

## <室内遊び>

	環境	安全指導・配慮
保育室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内は整理整頓をし、物と物の距離を考えた配置する。</li> <li>・ロッカーや棚は倒れてこないように固定する。</li> <li>・衝突しやすい角に衝撃吸収カードを取り付ける。</li> <li>・ドアの開け閉めで指を挟まぬよう固定する。</li> <li>・床に物が点在しないよう、拾い片付ける。</li> <li>・誤飲・窒息の恐れがある物は出しておかない。</li> <li>・カーテンは手の届かない高さにまとめるなどを工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドアの開閉の際は、子どもの指の位置を確認してから行う。</li> <li>・子どもが扱うのに危険が伴う用具については、その危険性について指導する。必ず、大人の目の届くところで使用させる。</li> <li>・鼻や耳に物を入れて遊ばせないようにする。</li> <li>・色水やクレヨンや粘土など誤食誤飲しないように注意する。</li> <li>・絵本や紙芝居の角や木製のレールなどおもちゃを友だちに投げつけたり、振り回したりしないように注意する。</li> <li>・職員が交代する時は必ず引継ぎを行う。</li> </ul>
個別対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脱臼しやすい子どもの把握と腕を強く引っ張らないように注意する。</li> <li>・かみつきやひっかきには、素早く防止できるように気を配る。特に友だちへの関心が強くなった頃や言葉では十分伝えられない葛藤が生じる頃には、その子の思いを先に保育者が代弁して気持ちを安定させて関わり方の方法を一緒に行う。</li> <li>・体調や機嫌など子どもの心の動きに注目する。</li> <li>・個々の特性を理解して、目線や表情などから予測される衝動的な行動による怪我を防ぐ。</li> </ul>	

## <戸外遊び>

	環境	安全指導・配慮
遊具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが遊び出す前に露や雨上がりの遊具の水滴が拭きとってあるか点検する。 (ぶらんこ)</li> <li>・出入り口以外の不意の侵入防止対策〔柵など〕の設置がされている。 (すべり台)</li> <li>・すべり面や着地点に危険な物や障害物は置いてないか確認する。</li> <li>・夏場すべり面の温度に注意する。 (登り棒) 危険な物、障害物は落ちていないか確認する。 (鉄棒)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・固定遊具の安全な使い方を遊ぶ前に知らせ、安全に気を付けて遊べるようにする。</li> <li>・遊具を使ったら元の場所に片付けることで安全に気持ちよく使えるようにする。</li> <li>・保育者の眼が行き届かない場所は、保育者と一緒に行って遊ぶように指導する。</li> <li>・遊具を持って固定遊具に登ったり上から遊具を落としたりしないよう注意する。</li> <li>・遊具にロープやひもなど結んであそばないよう指導する。</li> <li>・ジャングルジムの上と下で子どもが遊ん</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄棒の下に危険な物、障害物が落ちていないようにしておく。 (ジャングルジム)</li> <li>・危険な物、障害物は落ちていないか確認する。 (木製遊具)</li> <li>・木が腐食していないか網の破損はないか確認する。遊具の下に危険物や障害物が落ちていないか確認する。 (平均台)</li> <li>・平均台の下に安全マットを敷いておく。 (なわとび)</li> <li>・固定遊具や身体に結びつけて遊んでいないか。 (三輪車・スクーター)</li> <li>・コンクリートの上で乗ると砂ですべりやすいため砂を履き出しておく。 (フープ)</li> <li>・つなぎ目の破損はないか確認する。 (ボール)</li> <li>・ボールで遊ぶ為のスペースが確保されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・でいる場合、それぞれの子どもに注意する。</li> <li>・子どもの運動能力が伸びるように全身を使った遊びが十分できるように環境を整える。</li> <li>・遊びの習熟度に応じて出す数と対応する保育士の配置や人数の配慮をする。</li> </ul>
砂場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日砂場を掘り返し日光消毒をおこなう。</li> <li>・動物などの汚物が落ちていないか確認する。</li> <li>・風が強い日は砂が舞い眼にはいりやすいので、水をまき砂が飛ばないように予防する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長い柄のスコップなどの使用の際は周りとの距離に注意する。</li> <li>・未満児は砂を口に入れないよう保育者が目を離さない。</li> </ul>
園庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柵ロープなどが緩んでいないか点検し修繕する。</li> <li>・定期的に園庭の石拾いをする。</li> <li>・遊ぶ前に危険物が落ちていないか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢で遊ぶ際は保育者同士連携し、互いに配慮する。</li> <li>・園庭全体を見わたせる役割の保育者を配置する。</li> </ul>
プール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プールの周りが濡れていると滑りやすいので滑らないようにマットを敷いて滑り予防策をしておく。</li> <li>・プールの水は毎日かえプール内も清掃する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検温表の確認を行う。</li> <li>・気温と水温50度以上あるか確認する。</li> <li>・転倒防止のため濡れている所は拭き、子どもには走らないように指導する。</li> <li>・子どもから目を話さないようにし行動を複数の保育者で良く見る。</li> <li>・準備体操を行う。</li> </ul>

### <テラス・廊下・出入り口・昇降口・階段>

	環境	安全指導・配慮
デッキ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・床材のめくれや、破損、亀裂などがいないか注意し、見つけたらすぐに補修をする。</li> <li>・床面の段差やマット・すのこなど滑らないように工</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出入り口付近や廊下では、遊具を広げた り、走り回らないように指導する。</li> </ul>

廊下 出入口 門 坂道	<p>夫している。また、突起物（釘）などがいないか注意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・床が水で濡れていたり、砂やゴミなどが落ちていて滑りやすくなっていないか注意し、こまめにふき取ったり清掃を行なう。</li> <li>・廊下に手洗い場があったり、雨天時に雨が降り込んだりする場所では、特に注意し、必要であればマットなどを敷いて防水に努める。</li> <li>・タオル掛けなどは避難経路をふさがない場所に置き、接触しても倒れたり、危険がないような工夫がしてある。</li> <li>・子どもが走ることを考慮し、できるだけ物を置かない。</li> <li>・ドアの蝶つがいや鍵穴、出入口の柵など指詰めや転倒時の怪我を防ぐためのガードやクッションが施されている。</li> <li>・開き戸の開閉時は、ストッパーは作動しているか確認する。</li> <li>・扉のレールや蝶つがいなど破損はないか確かめる。</li> <li>・出入口・昇降口には、付近に障害となるものを置かない。</li> <li>・室内は裸足なので、災害時や緊急時に備えて、デッキでは避難靴を使用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出入口での衝突事故を防ぐためテラスへ飛び出したり、室内へ走りこんだりしないよう指導する。</li> <li>・デッキ用シューズはデッキに出てから履くようにする。</li> <li>・移動の際には、落ち着いて行動がとれるような言葉かけを行うよう注意する。また、大勢での移動は、状況に応じて整列させるなど工夫する。</li> <li>・災害時の避難路が確保されているか、常に意識する。</li> <li>・扉を開け閉めして遊んだり、指を入れたりしないように指導する。</li> <li>・玄関・坂道子ども一人で、行かせない。</li> <li>・坂を昇り降りする時は、子どもの下側を歩くか手をつなぐ。</li> </ul>
----------------------	---	---

## <園外保育>

	留意事項
基本的なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全度・危険度などの基準は、職員間で違うため、地域の環境、散歩ルート、時間帯による交通量などいろいろな状況や場面を想定して、職員間で基準となる安全ルールなど決めておく。</li> <li>・散歩マップには、散歩コース及び遊ぶ場所の危険箇所を記載し、各職員が周知できるものを作成する。</li> <li>・引率は必ず2人以上で実施し、そのつどリーダーを決めておく。</li> <li>・園外保育実施時には、カラー帽子を着用させる。</li> <li>・天候や気温・湿度などを確認し、水分補給や帽子の着用などの健康管理を十分に行なう。</li> <li>・常に保育者間で人数の確認をし合い、園児の所在を把握する。</li> </ul> <p>(人数確認)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 出発時</li> <li>② 目的地に着いた時 必ず名簿などを使って行なう。</li> <li>③ 目的地から帰る時</li> <li>④ 帰園時</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢児が合同で出かける場合は、歩く順番など保育者間で決めておき園児にも確認させておく。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出かける前に園児に散歩の場所・目的を知らせる。</li> <li>・歩道のない場合は、原則として車道の右側を歩行させる。</li> </ul>
散歩中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩用リュックにクラス名簿、救急用具、水(園児の水分補給・傷の消毒用)、メモ用紙、筆記用具を常備し、ホイッスルを携行する。</li> <li>・携行品のチェックは毎回行なう。</li> <li>・出発・帰園時間、行き先、園児の人数、引率者名を園外保育日誌に記入して出かける。</li> <li>・園児の心身の健康状態を把握し、散歩参加の可否を判断する。</li> <li>・天候などにより、衣服の調節を行なう。</li> <li>・靴が足の大きさにあっているか、左右履き間違えていないか確かめる。</li> </ul>
散歩中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩道や路側帯のない道路の右側、左側を歩くかは、目的地までの順路や道路の幅員、自動車などの往来などを総合的に判断し、安全第一に考えて決める。</li> <li>・保育者は園児の列の前後に位置し、車道側を歩き、園児が内側を歩く。(人数により列の中央にも位置する)</li> <li>・前方の子どもとの間隔の開きすぎや横方向へのはみ出しなど子どもの列の状態、人数や行動には常に注意を払う。曲がり角で死角になる場合は特に注意する。</li> <li>・歩道の切れ目では必ず停止し、左右確認させ、安全に歩くためのルールを教える。</li> <li>・園児は興味を示した物に手を出しがちなので、常に周りの状況に目を配り、危険物がないか確認しながら歩く。</li> <li>・道路の移動中に、動物、危険物(バイク、自動車、自転車、看板など)には触れさせないように日ごろから子どもに指導しておく。</li> <li>・階段や段差のある所では状況に応じて園児同士でつないだ手を離し、一人ひとりのペースで昇降できるようにし、声をかけながら側について見守る。</li> <li>・最後方で引率する保育者は側面から来る自動車やバイクなどに注意し、接近してきた場合、前方の保育者及び子どもたちに注意を促し、通過するまで停止させるなどの安全策を講ずる。</li> </ul>
目的地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的地に到着したら、安全確認を行う。</li> <li>★遊具点検</li> <li>★遊具周辺や砂場にガラス片や犬・猫の糞など危険物や不衛生なものがないか点検する。</li> <li>★傾斜地やくぼみなどの確認をする。</li> <li>★不審者などがいないか。</li> <li>・目的地での遊具での遊び方や行っても良い場所、いけない場所(危険な池や川、水たまりや急傾斜地などに近づかない。)について、子どもにわかりやすく説明してから遊ばせる。</li> <li>・トイレには必ず保育者が付き添い、鍵をかけさせない。</li> <li>・保育者は全体が見渡せる立ち位置を意識し、子どもの状況を常に把握する。トイレなどの引率でその場から離れるときには、他の保育者に声をかけてから移動する。</li> <li>・不審者がいないか注意し、不審者と思われる人がいたら、気づかれないよう子どもたちに集合をかけて園児を移動させる。</li> </ul>
帰園時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数確認は必ず門から園舎に入る前に、名簿と照会しながら迅速に実施する。</li> <li>・各児の健康観察を行ない、暑い時は必要に応じて水分を補給し、健康管理を十分に行なう。</li> <li>・散歩コース上に新たな危険箇所または伝えておくべき情報があったら散歩マップの更新を行い情報の共有化を行なう。</li> </ul>

## <害虫・外敵>

	環境	安全指導・配慮
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭や園舎の周りの樹木や草花などに虫刺されの原因になるような毛虫が発生していないか、蜂の巣などができていないかなど、発生時期には特に注意して巡視する。</li> <li>・ムカデやヘビ・蚊などが発生しやすい草むらやドブ・水溜りなどがあれば、除草や水抜きなどの清掃活動をこまめに行なう。</li> <li>・戸外、特に、園外に出るときには、不審者に対応できるよう市販のスプレー式の殺虫剤や、毒抜き器などを必ず携帯し被害を最小限にする。</li> <li>・ねずみやカラスなどは、食料品の収納・保管、清掃（生ゴミ、残飯の後始末）を徹底し、餌になるようなものを置かない。</li> <li>・通気口・通風窓への金網の取り付け、下水溝・排水口等のフタの整備など、侵入路を塞ぐ。</li> <li>・電気蚊取り器は、コードの配線に注意し、子どもが引っ掛けたりしないようにする。また、使用後はすぐに決められた保管場所に片付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不用意に樹木の茂みに分け入ったりしないように指導する。また、毛虫など、名前のわからない虫などを見つけたら、必ず保育者に知らせ、触らないように指導する。</li> <li>・蜂の嫌がることをしなければ普通は刺されないことを教え、嫌がることをしないように指導する。</li> <li>・飼育物や身近な小動物と触れあう時は、保育者が側に付き添いかまれたり引っかかれたりすることのないよう気をつける。接触後は手洗いを励行するように指導する。</li> <li>・薬液が漏れたり、薬剤マットを子どもが触らないように置き場所や保管場所に注意する。</li> <li>・乳幼児の健康に影響のある殺虫剤や嫌忌剤の使用については用量や使用時間帯・時期など慎重に行う。</li> </ul>
個別配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤や、毛虫や蜂などアレルギー症状の出る子どもについて保育士間で周知され、緊急の対応ができる体制をつくっておく。</li> <li>・アナフィラキシーショック対処法について保育者間で周知し、医療機関との連携や救急車の手配ができるようにしておく。</li> </ul>	

## <食事>

	環境	安全指導・配慮
準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台拭き用の消毒液は子どもの手の届かない場所に保管され、使用時は子どもが近くにいないか確かめる。</li> <li>・机・配前台を消毒しておく。</li> <li>・机の配置は、子どもが落ち着いて食べる位置にあり、移動の際にぶつからないように間隔がとれているようにしておく。</li> <li>・机は子どもの身体に合った机と椅子を使う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消毒液は適正濃度に希薄し管理はその都度行い、子どもの目に触れないところに保管し扱いには注意する。</li> <li>・トイレ、手洗い保育室と子どもの行動範囲が広がるが、目が届くようにする。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机の脚がきちんと立っているか確認す</li> </ul>	
配膳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いた雰囲気の中で配膳する。</li> <li>・一つの机に最高6人までの席にする。</li> <li>・食事専用エプロンと三角筋を着用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の食べ具合に応じて食材の大きさや状態など給食担当者と話し合い、子どもの月齢個々の症状に応じた食事が提供されるようにする。</li> </ul>
食事中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の準備ができた子から食べ始められるよう配膳する。</li> <li>・食事前床拭き雑巾とバケツを用意。</li> <li>・お茶や汁をこぼした時は、速やかに拭き取る。</li> <li>・食事が終わった子から下膳できるよう下膳台を用意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いた雰囲気の中楽しく美味しいをたいせつにする。</li> <li>・食事の温度に気を付け、熱い場合は冷ました状態で配膳し、やけどに注意する。</li> <li>・小骨のある魚メニューの時には、骨がないよう調理の際や配膳時に骨を除去する。</li> <li>・椅子から落ちたり、ひっくりかえったり、椅子で自分の足を踏むことが予想されるので椅子の座り方や姿勢に注意する。</li> <li>・1口サイズに気付け、良く噛んで食べるように指導する。 (団子など固形の物をよく噛まないで喉につまらせる)</li> </ul>
個別対応	<p>&lt;食物アレルギー児&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、調理員、担任と事前に打ち合わせして除去食献立のチェックをし、複数の職員で確認を行い間違えることのないようにする。(調理時・検食時・配膳時)</li> <li>・他児の食事と間違えて誤飲することのないよう保育者が傍について間違いがないようにする。</li> <li>・出来れば食べる場所を別にする。</li> <li>・食事の片付けの際に落ちているものを拾い食いすることが予想されるので、食事の後も注意する。</li> </ul>	

## <トイレ・沐浴室>

トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蝶番や扉など手指挟みをしないよう保護する。</li> <li>・衛生的でいつでも使用できるようにする。</li> <li>・ざら板やマットなどつまずきやすくなっているか点検。</li> <li>・消毒は子どもの手の届かない視界に入らないところに保管する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレが死角にならないように保育士の位置を考慮する。</li> <li>・水洗レバーは大人が介助しておこなう。</li> </ul>

## <午睡>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室温調節はこまめに行い、暖めすぎ、冷やし過ぎないように</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入眠時だけでなく、午睡時間</li> </ul>

	<p>する。（目安として外気温との差5 度以内が望ましい。冷房時：28℃、早朝時・午睡中は暖房：20～24℃）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寝ている子どもの上に物が落ちてこないように安全に注意する。</li> <li>・敷物やゴザ・布団などのめくれなどないようにする。</li> <li>・寝返り時に隣同士の接触による怪我や睡眠妨害を避けるために、適度なスペースを保って布団を敷く。</li> <li>・午睡時に音響としてB. G. M を流す場合は選曲に留意し、流しっぱなしにしないようにする。</li> <li>・午睡時には必ず保育士が在室して、子どもの変化に対応できるようにし、下記の時間毎に睡眠チェック表にてチェックを行う。</li> </ul>	<p>の</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・途中においても温度や湿度・換気などに注意して快適な状態で午睡が出来るように配慮する。</li> <li>・頭ジラミや感染症の病気を防ぐためにも注意が必要。</li> <li>・布団の周りを走り回らせない</li> <li>・午睡後、十分に覚醒しているか、個々の状態を把握する。</li> <li>・SIDS を防ぐため熟睡はさせないようにする。</li> <li>・チェックは必ず体に触って確認する。</li> </ul>
--	---	--

### <SIDS（シズ）乳幼児突然死症候群の予防について>

寝かせるとき の 注 意 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うつ伏せ寝はさせない。</li> <li>・敷き布団は固めのものを使う。</li> <li>・掛け布団は軽いものを使う。</li> <li>・掛け物が顔にかからないようにする。</li> <li>・枕や枕代わりに折ったタオルなどは使用しない。また、不要なものは置かない。</li> <li>・保育室は子どもの状態が確認できる明るさにしておく。</li> </ul> <p>*睡眠チェック表への記載</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2 歳児…15分毎</li> </ul>
SIDS 発 生 時 の 対 応	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 子どもの顔色（口唇色）が悪くなり、呼吸が止まっているように感じるときは、すぐに名前を呼びながら、背中や肩を叩いたり、足の裏を刺激するなど、意識の有無を確認する。</li> <li>② 意識が確認できない時は、大声で他の職員に協力を求め、救急車（119 番）を呼ぶように指示する。</li> <li>③ 口の中を一かきし、何か入っていないか確かめる。</li> <li>④ 子どもの気道を確保して呼吸確認し、心肺蘇生を開始する。</li> <li>⑤ 保護者に連絡する。</li> </ol>

### <降園時>

環境	安全指導・配慮
・門の開閉を子どもが簡単にできないよ	（保護者）

<ul style="list-style-type: none"> <li>う、門、鍵などで施錠する。</li> <li>・門の破損や危険物がないか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園から外へ飛び出して行ったりすることもあるので、必ず保護者と手をつないで行くように指導してもらう。</li> <li>・職員と話をする時も子どもから目を離してしてしまうことがあるので、子どもと手をつなぐなどして話しを聞くように願います。</li> <li>・門の開閉で手をはさむなどの危険のあることを伝え、門の開閉は必ず保護者が行い子どもに開閉させないように願います。</li> </ul> <p>(保育者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との対話の時も子どもの方に注意をむけ、子どもの動きが、把握できるようにしていく。</li> <li>・危険がないよう注意する。</li> </ul>
---	--

## <施設安全管理>

	環境	安全指導・配慮
門	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子で出入りするため使用頻度が高いため、磨耗しやすいので常時安全点検とレールは毎日清掃を行う。</li> <li>・子どもが、容易に門の開閉できないようにし、飛び出し防止策をとる。(時間帯で門の開閉をするなど、常時は施錠をしておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出入りの際、大人が門の開閉を徹底する。</li> <li>・不審者が侵入しないよう対策(登降園のみ開門するなど日中は施錠)や、緊急時に備えての職員の避難指導、防護策がとれるようにしておく。</li> <li>・門に乗ったりしないよう指導する。</li> <li>・掲示板は正門近くに設置している場合は保護者が掲示を見ている際に子どもから目を離さないよう注意してもらう。</li> </ul>
フェンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェンスの破れから子どもが園外へ出て行かないように防止策をとる。</li> <li>・不審者が乗り越えられない防犯対策をする。</li> <li>・近隣住宅と隣接している場合は玩具用具等が入らないようにしておくと共に入ったらすぐ取り除く。</li> <li>・生垣・害虫等の発生時期に応じて駆除を行うよう点検をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェンスのネットに手を突っ込んだりよじ登ったり乗ったり、園外に用品等をなげないように指導する。</li> <li>・剪定後は枝等が鋭角になっているのでケガをさせない対策をし、子どもに注意するよう指導する。</li> </ul>

園舎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設全体を捉えて、傾きやヒビ割れやカビ等がないか定期点検を行い、すぐ修繕し現状の回復をしておく。</li> <li>・台風や災害等に備えて対策を行い、被害を最小限にする。</li> <li>・窓ガラスなどの破損しやすいものには、飛散防止の対策をする。</li> <li>・園舎外側に危険物等が放置されていないか確認をして清掃をして取り除くようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日よけやグリーンカーテンなど建物に影響がでないよう注意する。</li> <li>・死角になりやすい場所が多いので遊び場の制限をするなど安全に遊べる場所との区別がつくように侵入防止対策をしておく。</li> </ul>
空調器具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生的な環境で安全に給食提供ができるよう常に清潔、床の乾燥を保つようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが配膳棚等触ったり、侵入しないように指導する。</li> <li>・食缶等は子どもに持たせない。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コードでつまづく、引っかからないようデッキや電子ピアノの設置場所に注意をする。</li> <li>・使用している電気製品のコードにホコリが溜まり、火災の原因になることもあるので掃除を怠らない。</li> <li>・絵本棚・くつ箱等は転倒することを想定して転倒防止対策をとっておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用後は必ず、電源を抜き、子どもが使用してもいいものとの区別が出来るように指導する。</li> <li>・子どもが家具等に登ったり、入り込んだりしないよう指導する。</li> <li>・施設の立地により、隙間などに入り込んで遊んだり隠れたりすることを好む子もいるので日頃から子どもの行動や遊び方を把握し、常に注意を払うようにする。</li> <li>・保護者自身にも日頃から安全意識を持ってもらい、危険な行動は注意してもらうように指導をする。</li> </ul>

#### <事故対応>

事故発生→ 被害児対応（応急手当、状態観察）→ 他児対応→ 連絡・通報（保護者、園長、医療機関等）

- ・一人の保育士が事故の対応をし、もう一人の保育士は他の子どもを集め保育園に連絡し、場合によっては応援を要請する（保護者へは、保育園から連絡する）。
- ・子どもの安全を守ることを第1とし、子どもたちを集めて落ち着かせ移動する。
- ・近くにいる人に大声で助けを求める。
- ・事故の状況によっては、病院に搬送する（軽度の場合は受診）。
- ・状況に応じて警察に通報する。
- ・事故発見者は、事故の正確な状況を速やかに園長に報告する。

◇事故の状況（誰が、いつ、どこで、なぜ、どうした）

◇現在の状態（出血や打撲の有無、顔色、全身状態等）

- ・園長は、事故の正確な状況を速やかに被害児童の保護者に報告する。
- ・下記のような症状の場合は、救急車を要請しすぐに医療機関に受診する。
- ◇意識が「もうろう」としている、または「うとうと」している場合。
- ◇けいれん、引きつけを起こしている場合。
- ◇呼吸困難を起こしている場合。
- ◇顔色が悪く、「ぐったり」している場合。
- ◇吐き気や嘔吐を繰り返している場合。
- ◇薬品、電池等を誤飲した場合。
- ◇出血が止まらない場合。
- ◇熱傷や火傷の面積が広い場合。
- ◇骨、関節が強度の変形をおこしている場合。
- ・医療機関へ受診する場合は、職員が事故児の健康調査票を持参して付き添い、事故の状況、園児の既往歴、アレルギーの有無、体重等を正確に医師へ伝える。
- ・医療機関へ付き添った職員は、随時、受診状況等を保育園へ報告する。
- ・医療機関の診察、検査結果、今後の受診、費用等について、被害児童の保護者へ報告する。
- ・事故の関係職員は事故翌日までに事故状況をまとめた報告書を作成。

<食中毒または食中毒の疑いがある感染症発生時の対応>

保育園において嘔吐、下痢、発熱等の症状を示す職員、園児が短時間に複数名以上認められた場合は、園医と園長で協議し場合によっては下記の対応をとる。

◆病院への搬送、受診

- ・保育園内で食中毒の疑いがある職員、園児が発生した場合、患者数や発生状況に応じて、病院に搬送するかまたは各人で病院に受診してもらう。
- ※食中毒患者またはその疑いがあるものを検診した医師は最寄りの保健センターに24時間以内に文書、電話または口頭により届け出る義務がある。

### 3 応急処置

<けが等で出血したとき>※血液の処理は必ず使い捨て手袋を使用する

症状	応急手当
軽い出血	流水で消毒後、ガーゼや清潔な布で、傷口を閉じるように押さえて止血する
出血がひどい	圧迫して止血すると同時に手足なら心臓に近い部分をしばり、至急病院へ
ガラスや釘がささった	深い場合は無理に抜かない 病院（外科）へ
とげがささった	とげ抜きや消毒した針でほじりながら取る
すり傷・切り傷	泥や砂はよく洗い流し流水消毒する
鼻血が出たとき	

<頭を打ったとき>

症状	応急処置
意識がない	気道を確保する 119番通報救急車要請
出血がひどい	傷口をきれいなガーゼや清潔な布で押さえて止血する
繰り返し嘔吐がある	吐いたものが気管やのどにつまらないよう横向きに寝かせる至急病院へ
顔色が悪くいつまでも元気がない	病院（小児科、脳外科）へ
意識はある	元気なときでも24時間安静にして様子を見る
こぶができた	冷たいタオル等で冷やす安静にする

<胸部や腹部を打ったとき>

症状	応急手当
意識がない、呼吸困難、	気道を確保する 119番通報救急車要請
顔が青ざめ嘔吐がある	吐いたものが気管やのどにつまらないよう横向きに寝かせる
大きく腫れているか出血している	傷がある場合は、止血する
血尿や黒い便がでる	食べ物、飲み物は与えない 至急病院へ
顔色が悪くいつまでも元気がない食欲がない	病院（小児科）へ
特に症状はない	元気なときでも24時間安静にして様子を見る

<骨折、ねんざ、脱臼したとき>

症状	応急手当
激しく痛む	骨折や脱臼の可能性があれば、添え木等で固定してその部分を動かさないようにする 添え木ができないときは、病院が近い距離なら動かさないようにするだけでも十分 病院（整形外科）へ
痛みや腫れが続く	冷湿布を貼り、関節を動かさないようにする 病院（整形外科）へ
指が切断されてしまった	切断された指を洗わず清潔なガーゼ等にくるみビニール袋に入れる。さらに氷の入った別のビニール袋に入れ、指を止血する 至急病院へ

骨折した	えんぴつや割り箸等で固定し病院へ
爪が剥がれる	しっかりと消毒をした後、はがれた爪をもとの位置に戻して包帯をまく
大きな血まめ ができた	腱が切れている可能性があるので、アイスノン等で冷やす

### <指をはさんだとき>

症状	応急手当
腫れや強い痛みがある	病院（整形外科）へ
腫れや痛みはない	しばらく冷やして様子を見る

### <歯をぶつけたとき>

症状	応急手当
歯が抜けた、歯がグラグラしたり、めりこんでいる	抜けた歯を食塩水につけ、6時間以内に歯を差し込んでもらう 出血している部分をガーゼ等で押さえ、ほおを冷たいタオル等で冷やす 至急病院（歯科）へ
歯が折れた	出血している部分をガーゼ等で押さえ、ほおを冷たいタオル等で冷やす 病院（歯科、口腔外科）へ
口の中を切った	ガーゼ等で口の中の血をふき取り、ぬるま湯で口をゆすぐ

### <熱中症になったとき>

症状	応急手当
意識がない・高熱が続きけいれんがある	気道を確保する 至急病院へ
意識はあるが、熱が高くぐったりしている	病院（小児科）へ
顔色が赤く、ポーっとしている	涼しいところで服をゆるめるか脱がせて寝かせる。 頭や身体を冷やし、水やスポーツ飲料等を与える

### <溺れたとき>

症状	応急手当
意識がない	気道を確保する
意識なく呼吸していない脈がない	心肺蘇生法を行いながら119番通報救急車要請
意識はある	暖かくする 病院へ（小児科）
水にもぐった程度	様子を見る

### <やけどをしたとき>

症状	応急手当
片足、片腕以上の広範囲	流水で冷やす、アイスノンで冷やしながら 至急病院へ
手のひら以上の範囲	流水で冷やす
500円玉より大きい水ぶくれ	つぶさないようにする病院（外科、皮膚科）へ
赤くなった程度	流水で十分冷やしガーゼでおおう 病院（小児科）へ

### <異物を飲み込んだとき>

飲み込んだ物	応急手当 備考
薬	水や牛乳を飲ませて吐かせる 病院へ（小児科）
タバコ	のどの奥を刺激して吐かせる 病院へ（小児科）
衣類用防虫剤	牛乳はダメで、水を飲ませて吐かせる 病院へ（小児科）
洗剤、漂白剤強い酸やアルカリ性の物	牛乳、卵白を飲ませるが、吐かせない 病院へ（小児科）
灯油や揮発性の物質	吐かせない 至急病院へ

### <のどに物がつまったとき>

対象児	応急手当
乳児の場合	左の腕に子どもをうつぶせで45度位下向きにして、背中肩甲骨の間を強く5回たたく。その後反対に裏がえして、胸部を心臓マッサージと同じ方法で圧迫する
幼児の場合	両腕を子どもの体に回してこぶしをへその上の胃のあたりに充て、上の方へ素早く数回押し上げる

### <目にものが入ったとき>

症状	応急手当
化学薬品等が入った	大量の水で十分洗い流す 病院へ（眼科）
ゴミが入った	水で流し、水で濡らした清潔なガーゼで取り除く
砂が入った	水道水ややかんの水で洗い流す

### <虫に刺されたとき>

症状	応急手当
呼吸が苦しい	気道を確保する
スズメバチ、クマンバチ等大きなハチに刺された	針が残っていたらとげ抜きで取り毒を出す 至急病院へ
小さいハチに刺された	毒を出す針が残っていたらとげ抜きで取る

	病院へ（小児科）
毛虫に刺された	毛を抜き水を強く出して洗い流す。病院へ

※刺さった針には毒嚢という毒の袋がついており、指でつまむとさらに毒を注入してしまうため、針が

残っていれば、できるだけ触らず爪先で弾き飛ばす。それでも、抜けない場合は、爪やピンセットで毒嚢をつぶさないように丁寧に抜く。

### <動物等に噛まれたとき>

症状	応急手当
深く噛まれた、ひどく引っ搔かれた	細菌感染等の危険があるため、よく洗って消毒する 至急病院へ（外科）
軽い場合	傷を石鹼等でよく洗い、消毒して清潔なガーゼでおおっておく 病院へ（外科）

### <かみつき・ひっかき>

症状	応急処置
	流水で洗い流す
跡や内出血があったら	冷やす（揉まずにアイシングの要領で時間をあけ何度か冷やすと効果的）
傷になったら	傷口を清潔にし、ガーゼで保護する
顔の場合や深い傷等	成外科又は皮膚科を受診し医師の指示をうける ・ 傷が化膿していないか観察を続ける

### ※ 保護者の対応

- ・ ひっかき・かみつきされた保護者には、口頭できちんと状況を説明する。
- ・ 傷の大小に関わらず、わが子がケガ（ひっかかれた、噛まれた）をすることでショックを受け、心を痛めることを念頭において対応する。

### <救命処置>

#### ①意識不明 → 気道確保

意識がないことに気づいた場合は至急救急車を手配する。それと同時に必要なのが気道確保。

※気道とは、口や鼻から肺までの呼吸をするための空気の通り道のこと。

#### ②呼吸停止 → 人工呼吸

4分以上呼吸が停止すると、酸欠により脳が機能障害を起こす可能性が出てくる。

呼吸が停止していることに気づいたら、救急車を呼ぶと同時に人工呼吸を開始する。

#### ③心臓停止 → 胸骨圧迫（心臓マッサージ）

意識がなく呼吸も停止している場合は、心臓も停止していることがある。脈がないのを

確認したら、すぐに人工呼吸と胸骨圧迫を行う。